

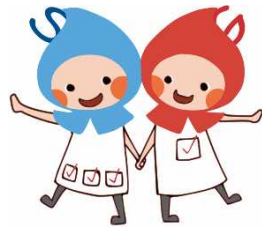
令和 3 年度第 2 回防災と保健・福祉の連携モデル 検討のための意見交換会

前回意見交換会の振り返り

滋賀県知事公室防災危機管理局



滋賀県危機管理センターキャラクター
「ピワエン」



滋賀県健康づくりキャラクター
「しがのハグ&クミ」



前回会議の概要

会議名称：第1回防災と保健・福祉の連携モデル検討のための意見交換会

開催日時：令和3年11月5日（水）10：00～12：30

開催場所：滋賀県危機管理センター オペレーションルーム（オンライン併用）

出席者：

団体名	氏名	団体名	氏名
同志社大学	立木 茂雄 様	滋賀県老人福祉施設協議会	堤 洋三 様
	辻岡 綾 様		村井 幸之進 様
滋賀県社会福祉協議会	高橋 宏和 様		生田 雄 様
	安武 邦治 様	滋賀県訪問看護ステーション連絡協議会	谷口 智恵己 様
滋賀県障害者自立支援協議会	大平 眞太郎 様	滋賀県民生委員児童委員協議会連合会	呉屋 之保 様
滋賀県相談支援専門員協会	木村 和弘 様	トークグラフィッカー	山口 翔太 様
	菅沼 敏之 様	市町	防災・保健・福祉部局
滋賀県介護支援専門員連絡協議会	鈴木 則成 様	滋賀県	防災（土木事務所含む）
滋賀県介護サービス事業者協議会連合会	西村 武博 様		・保健（保健所含む）
			・福祉・医療・土木部局

オブザーバー：県内関係団体、内閣府、国モデル自治体、メディアなど

※出席者＋オブザーバーの合計約160名（オンライン参加含む）

前回会議内容の概要

①『滋賀モデル』の概要とこれまでの経緯 【滋賀県防災危機管理局より】

要配慮者対策の背景・課題、国の動き、滋賀県における令和2年度の動き、滋賀モデル構築までの経過、滋賀モデルの概要について説明。

②『滋賀モデル』に基づくモデル地域における取組状況

【大津市危機・防災対策課、高島市社会福祉課より】

モデル地域である大津市・高島市から、『滋賀モデル』に基づく取組の進捗状況や課題などについて中間報告をいただいた。

③モデル地域に関するご講評 【同志社大学 立木教授より】

これまでから滋賀県の施策構築・実施にご協力・ご助言いただいている立木教授から、『滋賀モデル』や、モデル地域である大津市・高島市の取組状況についてご講評いただいた。

④『滋賀モデル』およびモデル地域に関する質疑応答・意見交換

個別避難計画作成の主体である市町を中心に、『滋賀モデル』やモデル地域の取組に関する質疑応答、意見交換。

モデル地域における取組状況（11月5日現在）

【大津市】

高齢、障害、医療
3つの分野で
それぞれ検証中

	対象者、参加者	実施日
避難行動支援者連絡会議	保健・福祉・防災部局 市社会福祉協議会	随時開催 (4/13、7/30、9/28)
市町職員対象研修会	市の保健・福祉・防災部局	3/26
学区推進協議会	学区の自治連、自主防 社協、民児協、消防団等	4/21、5/19、11/24
防災力向上研修	保健・福祉専門職	6/8、6/9
個別避難計画理解研修	地域住民	7/4
当事者の備えについて調査	避難行動要支援者本人、専門職	個別実施
地域の支援力の調査	対象者の近隣住民	個別実施
調整会議(ケース会議)	避難行動要支援者本人、 その家族、専門職、近隣住民等	個別実施
計画内容検証のための訓練	計画に関係する者	個別実施

【高島市】

	協議会・研修会等	WG会議等	事務局の動向等	モデル地区	国・県モデル事業
4月	市内・市外への協力依頼・準備	市内・市外への協力依頼・準備	市内・市外への協力依頼・準備		
5月	24日 第1回協議会	24日 第1回両WG会議	4日 県・立木先生等打ち合わせ 25日 県・立木先生等打ち合わせ		
6月	9日 保健・福祉専門職対象防 災力向上研修会	18日 第2回高齢者WG会議 28日 第2回障がい者・医療的 ケア実者WG会議	4日 県・立木先生等打ち合わせ 25日 県・立木先生等打ち合わせ		15日 国モデル事業 キックオフ会議 30日 国モデル事業合同研修会
7月	28日 第2回協議会	6日 両WG会議リーダー打合せ 19日 両WG会議リーダー打合せ	9日 市災害ボランティア活動連絡協議会 にて取組紹介		29日 国モデル事業 第1回ノウハウ共有MTG
8月			6日 障がい・医療的ケア実者 構成協議会 11日 市内ケアマネ協議会取組説明会 26日 広島市・岡山市・福知山市 オンライン意見交換会	モデル地区検討 優先順位チェックシートとりまとめ	23日 国モデル事業 第2回ノウハウ共有MTG 27日 県モデルネットワーク会議
9月			2日 市内民生委員児童委員会会長説明 14日 東近江市オンラインヒアリング 1日 県・立木先生等打ち合わせ 1日 市内ケアマネ協議会会長副会長 打ち合わせ	30日 【障がい】モデル地区との打ち合わせ9日 (本人・地域同意) 7日 【高ケア】保健所打ち合わせ 12日 【高齢】モデル保健所取組説明 (本人同意)	9日 国モデル事業 第3回ノウハウ共有MTG
10月			6日 障がい者相談支援センター打ち合わせ17日 13日 京都府オンラインヒアリング 15.16.19.20.26日 市内民生委員児童委員会説明会	【障がい】モデル地区住民説明会 (本人同意) 19日 【高齢】モデル地区区長説明 (地域同意) 21日 【障がい】ケース会議・避難訓練	
11月			4日 新旭地域セーフティネット連絡会 取組紹介		5日 県意見交換会 11日 国モデル事業 第4回ノウハウ共有MTG

講評(立木教授)

- ・ 災対法で努力義務になったからでなく、福祉事業所BCPが義務化されたからではなく、「災害時に誰一人取り残さない」というミッションの達成が、個別避難計画作成の目的。
- ・ 高島市でチェックシートを専門職に作っていただいている目的は、「災害リスク」はハザードマップで分かる、「心身の状況」は要介護度等で分かる、しかし「独居、社会的孤立」の状況は普段サービスを提供しているケアマネや相談支援専門員に問い合わせないと分からない。
- ・ 大津市からの発表にあったとおり、高齢分野・障害分野・医療的ケア分野の分野ごとに進めていっては地域に出た時に非効率となる。庁内から連結して、各分野を同時に進めていく必要がある。

主な質疑応答・意見交換

【質問者①：湖南省】

個別避難計画作成に必要な予算は？ 大津市・高島市では、どのような経費を見込んでいるか？

【大津市】

福祉専門職への報酬や、研修・会議の開催経費。

【高島市】

福祉専門職への報酬や、当事者力アセスメント用のキット代など。

【質問者②：甲賀市】

5年を目途に「優先度の高い方」について計画作成をする必要があるが、大津市・高島市はどのように進めるか？

【大津市】

まずは、福祉専門職が関わることとなる「ハイリスク層」を抽出。「ミドルリスク層」「ローリスク層」については、ご家族・地域にも主体的に協力していただく。

【高島市】

チェックシートを用いて「ハイリスク層」を抽出。避難行動要支援者のうち「ハイリスク層」は1割程度の見込み。ミドルは地区防災計画づくりの中で進めていくスキームを防災部局と検討中。ローはセルフプランとして本人家族が中心。

【立木教授】

国の指針P18などにハイリスク層やミドル・ローリスク層の進め方が書かれているので要参照。

主な質疑応答・意見交換

【質問者③：東近江市】

当事者意識の低い地域ではどのように進めたらいいか？

【大津市】

誰でも高齢者になり得るといふ全住民に係る取組であることを全面に説明していく。

【高島市】

民生委員や福祉専門職の方々は、災害時について懸念されている。このような方々から問題提起していただく。

【立木教授】

この取組については「地域は助ける、当事者は助けられる」だけではダメ。まず、当事者が自己決定し、自らのことを周囲に開示する、それによって地域が初めて知る、そして支援が誘発されるというプロセス。これまで防災では自己決定、自己開示など個々人に注目してこなかった。だから福祉と連結する必要がある。

【質問者④：長浜市】

高齢化が進んでおり避難支援者の確保に課題を感じている。

【立木教授】

避難支援者は近所の人という固定観念があるかと思うが、他県では**事業者と協力して、移送手段や避難先を確保している例がある**。新潟県上越市や兵庫県豊岡市など。



主な質疑応答・意見交換

【質問者⑤：彦根市】

個別避難計画作成にあたり、福祉避難所の確保はどのようにすべきか？

【大津市】

福祉避難所へ直接避難ができるよう各施設と話を進めているところ。

【立木教授】

国は福祉避難所のガイドラインを改正し、福祉避難所への直接避難が可能であることが明記された。明記されてはいなかったがこれまでからも可能。

従来から福祉避難所は、一般避難所からの二次的な避難先という運用をしていた市町が多いので、早急に直接避難が可能となるよう各市町の制度を見直す必要がある。

【滋賀県健康福祉政策課】

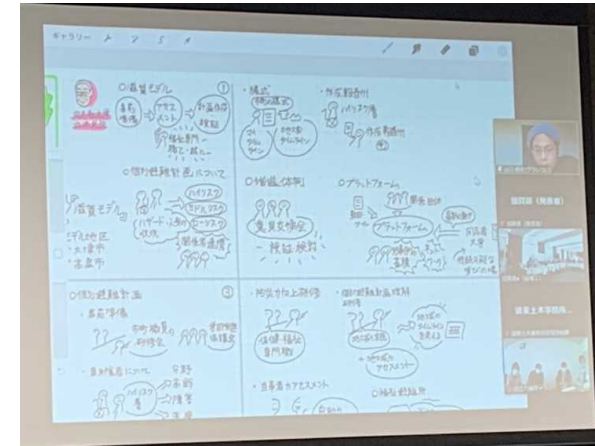
従来の制度のまま運用されている市町については見直しをお願いしたい。

【質問者⑥】

個別避難計画作成にあたり、市町はまず何から始めるべきか？

【立木教授】

国の指針P19のStep1から始めましょう。それは庁内外の連携。制度が変わって関係部局・関係機関と連結しなければならなくなったことを首長や幹部職員へ説明すべき。避難行動要支援者名簿を地域へ渡すだけのいわば丸投げとは、明確に異なることを理解していただくべき。



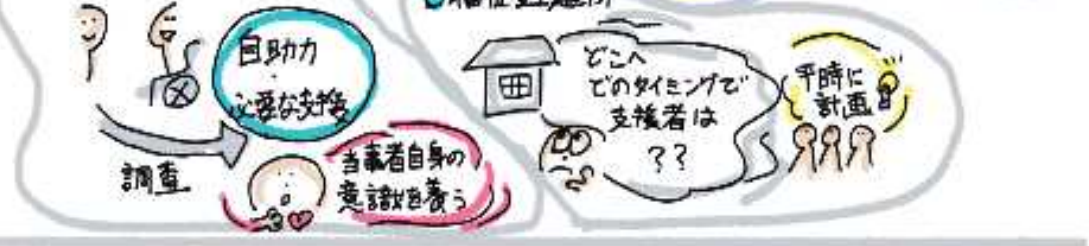
令和3年度
第1回 防災と保健・福祉の連携モデル
検討のための意見交換会



「滋賀モデル」これまでの経緯



大津市の取組の進捗報告



高島市の取組の進捗報告



なぜ取組を行うのか?



取組の肝①



取組の肝②



これまでの取組



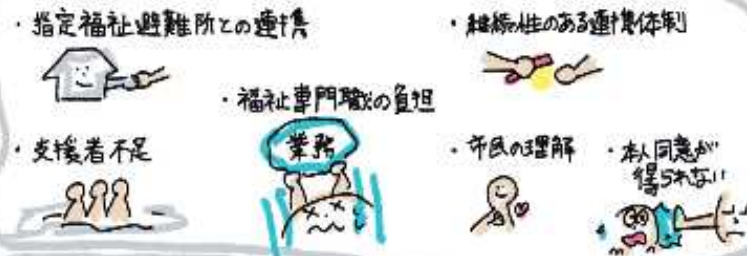
優先順位チェックシート



モデル事例の紹介



取組推進の課題



取組を行うにあたって



令和3年度
第1回 防災と保健・福祉の連携モデル
検討のための意見交換会

2021.11.5

意見交換

●甲賀市

・5年以内に計画が完成しない、どう考える。

大津市 高島市

優先度の高い人
チェックシートを用いて、決めたい

新しい制度
ガイドライン18P

心身
社会的孤立

モデルリスク、ロースクは??

●甲賀市

・全ての地区防災計画を作るのか?

作成できればいいが、ハードルは高い

地区の防災計画と連携

●長浜市

・避難支援者の確保方法は?

地域の人でなく、専門知識! 行政が入っていく

高齢化率も高い

地域の人がいなくなり、行政からアプローチ

支援者

あなたは〇〇の福祉避難所

介護タクシー 社会費を3活用

福祉避難所

●彦根市

防災部局・福祉部局
で必要と見込まれる
予算は?

人員について
大津市10人 高島市5人

予算
全体として

福祉
作成費用 7000円

高島市 高島市14人

福祉側で
担当は1人 9.7名乗車

研修費用など

県のモデル事業

市町 県

●東近江市

・防災意識の低い、地域での取組み

自分事化出来た

誰でも高齢者になる
⇒みんなに関係がある

計画を作る中で上げていく
防災意識UP

家の近くに当事者の方がいる人だ!!

地域の力

日々の会話から

自己開示 自己決定

当事者の自己決定

●彦根市

・福祉避難所での連携

福祉避難所

すぐに立ち上げられるのか?

災害基本法の改正
市町へのアンケート

直接避難の促進

避難所?? 避難場所??

運用上どうなの??

人による、物価の課題

●甲賀市

・110 福祉避難所に関する

バル3で迷り失せ

避難所?? 避難場所??

運用上どうなの??

●草津市

・1件当たりの時間

個別避難計画

調整へ完成 1人3ヶ月を目安 1年間40件を

5年までどこまで

まっすぐみて合理的にできる部分を見つけていく

トワケラフイカー 山口 初太

●守山市

・市内・市外の調整は??

社会福祉課 事務局

●草津市

・まっすぐ何をしたらよいのか?

新しいガイドラインをダウンロード

PI9

方内外プロジェクトチーム

地域に本腰がでなくなりましたよ